

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	福井工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	フクイコウギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップB
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	担当教員:環境食品科学科 准教授 辰巳佳次 他8名担当職員: 就職支援課 鷲田 美佐子
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	20
	受入企業等数	9
	受入企業等名	オリオン電機(株)、(株)UACJ、(株)ソディック、(株)タケダレース、 (株)ニホンパッケージ、(株)三和商会、(株)日本イー・エム・シー、八 田経編(株)、福井鋳螺(株)、アサヒテックノフォート(株)、ワットラジャ オロス高校
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密 着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラ ム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	従来型の就業体験型インターンシップに加え、企業によっては、学 生の能力を見ながら、課題を与えるケース、また企業の中でワーク ショップや問題解決型のインターンシップを実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバ ス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を 明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われて いますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップB(60時間以上)においては選択科目として実施。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的 のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間 が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮さ れるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していま すか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソ コンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っ ている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動 計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施 目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行って いる 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や 担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と 面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習については、約10時間にわたり、まず目的や期待する教育的効果の理解を促す為、インターンシップとは何かを学び、学生自身が希望する企業の企業研究やビジネスマナー、社会人基礎力、グループディスカッション、企業先との連絡方法等、多岐にわたり実施。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	毎日、日報等の提出、日々の体験や経験、また課題の振り返りの実施。また、インターンシップ終了後、報告書作成、成果発表会の資料作成、発表時また発表後には、受入企業や担当者へのフィードバックを行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	海外インターンシップにおいては、就業者、教職員が渡航先のインターンシップ先を回り、企業と学生と面談を行ったり、どのように働いているか、また健康面等の確認の実施。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの前後で、どのような経験があり、学生自身の中で考え方や行動がどのように変化したかをアンケート、報告書作成、成果発表で確認を行っている。また、ルーブリックを元に、評価がつけられ学生、および教員で共有している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	6日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	20日間(うちインターンシップ実施期間16日間～17日間)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップB(長期)については、60時間以上の就業をすることを原則としている。企業によっては、土曜日就業の場合もある為、連続して6日となる企業もあり。事前・事後を含む5日間以上は、休日も含み、20日のうち12日間となります。休日は、社員との交流、または、海外であれば現地の文化を学ぶ研修も実施される。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海外インターンシップにおいては、本学独自のプログラムであるため、本人の能力を見ながら、事前に情報交換をする中で、また、前年度の課題点も含め企業と協働してプログラムが作成されている。渡航前に日本においてに適正能力をみる企業もあり。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.fukui-ut.ac.jp/syllabus/detail.html?cd=868">http://www.fukui-ut.ac.jp/syllabus/detail.html?cd=868</a>
問い合わせ先	大学等名	福井工業大学
	担当部署名	キャリアセンター 就職支援課
	担当者役職名	就職支援課長
	担当者氏名	渡邊 嘉子
	電話番号	0776-29-7868
	メールアドレス	y-watanabe@fukui-ut.ac.jp